



町長エッセイ



平成9年、みどりが丘の高台に時計塔がシンボルの櫛台中学校が開校しました。小川町で4番目の中学校は、20年の歴史を重ね、9月17日に記念行事を行いました。学校教育目標を「絆を深め、人と地域社会に貢献できる生徒の育成」と定めており、地域の皆さんと学校の連携には密なるものが感じられました。「開校20周年記念誌」を紐解くと、その中に、昨年度「立志式を挙行」とあり、生徒1人1人が将来の自分と向き合い志を発表し合う学校行事と知り、聴いてみたいという衝動にかられました。

また、秋本番を迎えたこの時期は、町内各学校で運動会や学校祭が開催されました。大河小学校は「優勝はつかみとるんだ君の手で」、竹沢小学校は「がんばるぞ！汗の結晶みんなのメダル」

をテーマに練習の成果を思い切りぶつける児童の姿に大きな拍手を送りました。翌週、八和田小学校では「パワー全開八和田っ子本気の花を咲かせよう」、小川小学校では「団結し本気で進もうゴールまで！！」、東小川小学校では「かけあがれ！表彰台へ一直線！」、また、みどりが丘小学校では「心一つ！皆でつなぐ勝利の櫛」をテーマに、どこの児童も元気一杯。来年入学してくるお子さん達も、宝さがし競走に一生懸命でした。

東中学校の学校祭では、学年ごと全てのクラスが生徒の指揮、伴奏で合唱を披露し、芸術の秋にふさわしいパフォーマンスに会場が賑わっていました。

また、西中学校のはなのき祭では、10種類もの体験学習の成果発表があり、その中でもフラダンスコースが非常に印象的でした。